



チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 早稲田大学 BIG BEARS	3	14	7	10	34
 明治大学 GRIFFINS	10	7	0	3	20

グリフィンス4戦目は、早稲田大学BIG BEARS。



1Q

秋季リーグ第4戦、観客の歓声に包まれながら始まった伝統の一戦。早大の攻撃から試合はスタート。序盤に20ヤードのパスを通されるも#9関のロスタックルもあり、その後は冷静に守り、明治がすぐに攻撃権を奪います。#15 新楽圭冬から#21 高橋へのスクリーンで一気に敵陣深くへ。ここで#10 田村がフィールドゴールを確実に決め、3点を先制します。ディフェンス陣もパスが通される中で、フロントが自陣1ヤードで粘りを見せ、フィールドゴールに押さえ込む。良い流れのまま再び#21高橋が持ち味のスピードと力強さを発揮し、75ヤードを駆け抜けてタッチダウン。第1Qは10-3、明治が主将を中心にリズムよく試合を展開します。

2Q

第2Qは一進一退の攻防が続きます。早大が開始直後にタッチダウンを奪い10-10の同点。さらに反則も絡み、明治は攻撃権を早く手放す展開に。流れをつかんだ早大が二度目のタッチダウンで逆転し、10-17とリードを広げます。しかし、明治も簡単には引き下がりません。#89金子への32ヤードパスなどテンポの良いパス攻勢で敵陣まで攻め込む。前半残り1分を切ったところで再び#21 高橋が突破口を開き、力強いランでタッチダウン。明治らしい粘り強さを見せ、前半を17-17の同点で折り返します。



3Q

後半に入ると、流れは早大へと傾きます。ランプレーを中心に着実に陣地を進められ、明治ディフェンスも粘りを見せるものの、思わぬ形でRBの突破を止めきれずタッチダウンを献上。スコアは17-24となり、徐々に点差が開き始めます。オフェンスもチャンスを作る場面はあったものの、相手ディフェンスの圧力に阻まれ、無得点のまま第3Qを終えます。

4Q

試合終盤、第4Q中盤に#9 関拓真が相手QBのパスを読み切り、見事なインターセプト。会場が大きく沸き上がります。このビッグプレーから#21高橋と#15新楽がランで前進し、ファーストダウンを次々と更新。しかし、最後はタッチダウンまで届かず、#10 田村がフィールドゴールを沈めて3点を追加。スコアは20-24、あと一步のところまで詰め寄ります。その後、なんとか流れをつなぎたい明治でしたが、早大の集中したオフェンスを止めきれず、追加の得点を許してしまい、20-31と放されてます。明治オフェンスは決死のギャンブルを決行するも、相手ディフェンスに阻まれる。攻撃権が早稲田に移り、フィールドポジションが悪いながらも、果敢にターンオーバーを狙うがフィールドゴールを決められる。試合はそのまま20-34で終了。前半は互角の展開を演じたものの、後半の勝負どころで流れを取り戻せず、惜しくも敗戦となった。





チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 桜美林大学 THREE NAILS CROWNS	7	3	6	0	16
 明治大学 GRIFFINS	13	13	21	7	54

グリフィンス5戦目は、桜美林大学THREE NAILS CROWNS



1Q

立ち上がり、桜美林大のスペシャルプレーに先制のタッチダウンを許し、やや苦しい出だしとなった明治。
しかしすぐに反撃へと転じます。

#15 新楽のパスを受けた#19 五十嵐がそのままフィールドを駆け抜け、タッチダウン。オフェンスラインも安定したブロックを見せ、流れを引き寄せます。
その後のディフェンスでは#0 白岩がフィールドキックブロックに成功。攻守両面でリズムを作り出すと、#11 後藤 珠への22ヤードパスや
#21 高橋が49ヤードのロングランで追加点を挙げ、13-7と逆転に成功。試合の主導権を握り始めました。

2Q

第2Qに入っても明治の勢いは止まりません。
自陣25ヤード付近で#0 白岩がQBサック、そしてファンブルした球を#6 舘がリカバー。窮地を脱します。ラン・パス両方でテンポ良く進んだ明治
オフェンスは、#5 宇野のランで敵陣目前へと攻め入ると#15 新楽が冷静な判断からスクランブルを選択し、自らエンドゾーンへ。
#21 高橋のランと#89 金子のパスにより一気にゴール前3ヤードへ。
#21 高橋が難なくエンドゾーンへ運び再びタッチダウンを奪います。
オフェンスはテンポよくドライブを重ね、ディフェンスも粘り強く対応。
前半を終えてスコアは26-10。明治が着実にリードを広げ、安定した展開で後半へ折り返します。



3Q

後半は明治のキックリターンからスタート。自陣30ヤード付近でキャッチした#4吉田が35ヤードほどのリターンに成功し、理想的なフィールドポジションでオフェンスにつなげる。オフェンス陣もそれに答えるように#15新楽から#89金子の21ヤードタッチダウンパスが決まり、スコアを32-10とする。

ディフェンス陣も完璧なアジャストを魅せ、3プレーで桜美林の攻撃を退ける。次のオフェンスでは#15新楽の22ヤードスクランブルの後に#11後藤 珠へのパスが決まりタッチダウン。39-10と試合を決定づけた。ディフェンス陣もファーストダウン更新をさせない鉄壁の守りが続く。しかし、#4吉田のロスタックルで守り切った次のキッキングで、リターナーが痛恨のファンブル。

厳しいフィールドポジションからタッチダウンを取られてしまう。

その後のフィールドゴールを#0白岩がブロックし16-40となる。

#88田原へのパスや#37木村のランで着実に攻め込み、最後は#5宇野が押し込みタッチダウンに成功。攻守ともに落ち着いたプレーで明治が主導権を保ち続けます。



4Q

最終Qは一進一退の展開が続きましたが、終盤に試合を決定づけるビッグプレー。残り1分を切った場面で、#32 立田優希が相手のパスを読み切り、インターセプト。そのままリターンでエンドゾーンへ運び、ダメ押しのタッチダウンを決めました。

試合はそのまま54-16で終了。

序盤の失点にも崩れることなく、攻守がかみ合った安定した試合運びで、明治がリーグ3勝目を挙げました。





◆桜美林大戦を振り返って

桜美林戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

◆インタビュー #97 山本 隼輔 (DL)



■桜美林大学と対戦した印象。

OLの体格は他校に比べて大きいため力強いランプレーをしてくる印象

■桜美林戦の反省

ロスタックルやサックを狙いすぎたため前半は空回りしてしまったこと。もっと落ち着いてプレーするようにする。

■次戦への意気込み。

ファーストシリーズからこだわってプレーする。
ロスタックル2

◆インタビュー #5 宇野 楽翔 (RB)



■桜美林大学と対戦した印象。

ブリッツやDLのループが多く、とても複雑なディフェンスをしてくる印象でした

■桜美林戦の反省

タックルを受ける時の姿勢が高くなってしまい、後ろに倒されることがあったので、もっとフィニッシュの姿勢に拘りたいです

■次戦への意気込み。

中央大学はDLが強く、個人の能力も高いので、ディフェンスをよく見て、より判断を早く走れるようにします

◆インタビュー #89 金子 航大 (TE)



■桜美林大学と対戦した印象。

昨秋、今春共に中のRUNを止められ続けていて中DLの能力が高い印象

■桜美林戦の反省

早めに点差をつつけて普段出れないメンバーを出せたのはよかったが、メンツが変わった時にいないミスが目立ってしまった

■次戦への意気込み。

オフェンスで勝つ



明治大学アメリカンフットボール

GRIFFINS

2025年度10月号-1-6

明治大学体育会アメリカンフットボール部グリフィンス父母会



■次戦

2025年10月25日(土) 11:00 K.O. アミノバイタルフィールドにて中央大学との対戦です。

結果以外に重要な課題を発見した今回の試合を糧に、トーナメント進出に重要な1戦へと臨みます。

中央戦の勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！

GRIFFINSを皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go ! GRIFFINS.